

チョウセンハマグリの生息を確認しました

下河津漁港見高地区では潮流等の影響で港内に砂が堆積しています。地元の漁業者によると、かつてはアサリが獲れたことがあるものの、現在はみられず、また、これまで貝類の移植が行われたこともないそうです。

港内に河川の流れ込みはないので、外洋性二枚貝の生息を探るため、スコップシャベルで干潮時に水深 0~30cm 深程度の海底の砂を掘り、それを篩に掛け、生息する貝類を採集するという、簡易な採集調査を 5 月 10 日に行いました(図 1)。その結果、30 分間にチョウセンハマグリ 25 個体を採集しました(図 2)。

採集貝の殻長は 18~55mm(平均 37mm)、殻高は 15~43mm(平均 30mm)、体重は 2~44g(平均 18g)でした。今回は小型貝のみの確認に終わりましたが、付近にはそれをもたらした親貝が生息している可能性もあります。

そうは言っても、生息密度は凡そ 1 個体 / m²未満と低水準であったので、採貝漁業の対象となるほどの大きな資源量はないと推測されました。

貝殻の紋様が美しい貝なので、観光客が短時間、採集して楽しむ分くらいの小さな資源ではないかと思われ

れました。なお、いとう漁協や伊豆漁協(下田、南伊豆)では、はまぐりは共同漁業権対象種のため、漁業権者以外が採ると漁業権侵害により罰せられることがありますので、御注意ください。



図 1 下河津漁港における貝採取風景



図 2 採集されたチョウセンハマグリ

(川合範明)